

JUST NOW JATS

CHALLENGE FOR THE FUTURE

1.3.5.7.9月発行

2017

38

March

CONTENTS

- サマースクール2016 1～2面
- みんなでとろうIF、正会員申請案内、新教授紹介 2面
- 第1回理事会ニュース、第70回学術集会情報 3面
- 第34回日本呼吸器外科学会総会、第45回日本血管外科学会学術総会、編集後記 4面

サマースクール 2016 呼吸器外科 心臓血管外科

開催報告

呼吸器外科



心臓血管外科



今年も好評につき、サマースクールを開催します。毎年、募集定員を上回る参加希望者があり、認知度は年々上がっています。
呼吸器外科サマースクール2016（肺の手術にトライしてみよう）は、呼吸器外科学会との共催、肺癌学会と呼吸器学会の協賛の下、7月9、10日に神戸医療機器開発センターとニチイ学館ポートアイランドセンターで開催。医学生40名、研修医60名が参加し、ウェットラボを中心に講義、胸腔鏡手術ドライラボおよびコンテストと盛りだくさんの内容でした。
心臓血管外科サマースクール2016（体験と実感！心臓血管外科の魅力）は、心臓血管外科

学会と血管外科学会との共催で、8月20、21日にテルモメディカルプラネックスで開催。医学生47名、研修医60名が参加し、実際の機器を用いたウェットラボ、ドライラボ、模擬ライブ手術を通し心臓血管外科を実体験しました。共に懇親会があり、講師や全国の仲間達との交流を深め大いに盛り上がりしました。対象は医学生と研修医であり、将来の志望に関係なく、心臓血管外科・呼吸器外科に少しでも興味があれば、一流の講師や仲間と触れ合える場として参加を募ります。そして、将来の進むべき道へとつながることを期待します。
【研究・教育委員会委員長 荻野 均】

呼吸器外科サマースクール

肺の手術にトライしてみよう

2016年7月9・10日 in 神戸

参加者の声

ベーシックコース

●今回、外科志望ということもあり、大学の先生方の薦めで初めてサマースクールに参加させていただきました。参加できることが決まった後、受講者用テキストやビデオをさらっと見てから臨んだのですが、実際に体験してみると驚きの連続でした。

一番印象に残っているのが生きたブタの開胸体験でした。まずメスを入れるときの力加減が難しいところから始まり、電気メスの動かし方、止血のときの鑷子の使い方まで、実際の手術の見よう見まねでできるものではないということを知り知らされました。インストラクターの先生の丁寧な指導でコツのようなものが見えたかなと思ったところで時間切れ。悔しさが残り、来年もぜひ参加したいと思った瞬間でした。

そのほか、1日目の皮膚縫合、心肺ブロックの肺切除、2日目の胸腔鏡体験も、普段はできないような自分の手を動かす実習でそれぞれ没頭してしまい、すべて気づいたら終了時間となっていました。また懇親会では普段関わることのない大学の先生方や学生と話すことができたり、ランチンセミナーでは呼吸器外科の先生方からのキャリアプランの説明があったりと、今後のモチベーションの向上にもつながりました。

最後となりましたが、今回このようなとても楽しく、貴重な実習の機会を下さった事務局の皆様、ご指導いただいたインストラクターの先生方、一緒に実習をした学生の方、研修医の方に御礼申し上げ

げます。ありがとうございました。

（男性・学生6年生）

アドバンスコース

●まず始めに、貴重な経験をさせていただいたことに感謝申し上げます。全国から第一線で活躍されている呼吸器外科の先生方がこれだけ集まられたことは、感謝と共に驚きもあります。

今回、昨年に引き続き2回目の参加をさせて頂き、1日目に生きた豚の肺葉切除・摘出心肺での肺葉切除を行いました。学生であった昨年は手順書とにらめっこし解剖を確認することで精一杯でしたが、研修医となった今年は班指導医である千葉大学の坂入祐一先生のおかげもあり、手順書を見ずに全体の大まかな流れを掴んだ上で実習ができました。少しながらも進歩したことを実感できたと共に、自分たちの手を動かしながらチームで1つの作業をすることの楽しさを感じました。

2日目のドライラボでは、胸腔鏡・鉗子を使ってビーズを画鋲に刺すというタスクを行いました。班員は皆、ビーズを鉗子で掴むことは出来ても上手く画鋲に刺せずにいました。そんな時指導医の先生がビーズを掴む位置をどうすれば刺しやすいかを理論的に考え指導して下さると、班員は皆スムーズにタスクをこなせるようになりました。短時間で鉗子操作自体が急激に上達したとは考えにくく、しかし班員の皆は明らかにうまくなったことは、手技は手先の器用さだけでなく、頭を使うことでうまくいくようになるのだということを教えてくれました。

飲み会やランチン、特別講演もありかなり濃密な2日間で、2度目の参加でも十分に楽しむことができました。呼吸器外科を少しでも選択肢としている学生・研修医の方がいましたら、是非一度サマースクールに参加することをおすすめします。
（男性・研修医1年目）

インストラクターより

●今回、2016年呼吸器外科サマースクールに初めて参加させていただきました。私自身、当日まで全国から集まってくる呼吸器外科に興味を持った学生、研修医の皆さんの期待に応えられるか不安でした。実際参加してみると自治医科大学呼吸器外科スタッフの皆さんを初め、ベテランの先生方に囲まれて大変良い雰囲気の中で過ごすことができました。また呼吸器外科領域で活躍されていたり先生方も多数参加され、これからの呼吸器外科を担うかもしれない若い先生方への熱い期待が随所に感じられるセミナーでした。

今回、私が担当させていただいた先生方は研修医1年目が3人、2年目が1人でした。皆さん、やる気満々の良い顔を

た先生方で、結紮・縫合手技、ドライラボでの鉗子操作などに対し、研究熱心で、アドバイスしたことを素直に吸収しようとする心構えに大変感心いたしました。初日は摘出心肺を用いた肺葉切除・気管縫合を行った後に、生きているブタに対する右中葉切除術をみんなで協力して行いました。さすがに血の通った生きたブタでの手術操作には大変緊張した様子が伺え、真剣に頑張る先生方の姿には、こちらとしても教えがいがありました。夜の部は研修医やスタッフの先生方と美味しい酒をたくさん飲み交わし、たくさんの元気を頂き、これほど充実したセミナーは類をみません。またセミナーの内容、構成、時間配分が非常によく考えられており、参加された先生方は充実していたと思います。最終的には優秀な研修医の先生方のおかげで、優秀インストラクターの賞まで頂いたことには改めて感謝申し上げます。

最後にこのような機会を与えていただいた日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会ならびに呼吸器外科サマースクール2016事務局の皆様にご改めて感謝申し上げます。
（男性・インストラクター）

心臓血管外科サマースクール

体験と実感！心臓血管外科の魅力 2016年8月20・21日 in 神奈川

参加者の声

医学部学生コース

●とても充実した2日間でした。持針器を持つのも初めてだったのですが、先生方の熱い指導のおかげでかなり成長できたと思います。もっともっと上手になりたい。スキルを上げてもっとスムーズに運針したいといつか心臓血管外科に魅了されてしまいました。また、こんなに素晴らしい先生方に直々に技を伝授して

頂けるなんてすごく贅沢な機会だったと思います。先生方の教えに見合う人物になれるよう、これからも精進していきたいと思います。2日間ありがとうございました。
（女性・学生5年生）

●まだ、実習で心臓血管外科を回っていないので今回のライブ手術で初めて見て心臓が動いている下で細い血管をつなぐ技術に感動しました。同時に、自分でもやってみたく思ったので、今回のスク



ールで血管吻合、皮膚縫合をたくさんできて楽しい時間を過ごすことが出来ました。先生方が、針の持ち替えなど1つ1つの操作を先を見越して工夫してやられているという事を自身の実技を通して学ぶことが出来ました。飲み会では、女医さんと話すことが出来今後のキャリアを考えるうえで貴重な機会でした。

(女性・学生5年生)

●参加して本当に良かったです。全国の色々な病院の先生に教えて頂き大変貴重な経験となりました。Wet Laboはもっといろいろなことをやりたいのもう少し時間が長ければよいなと思いました。心外希望の友達が周りになかなかいないので、同じ夢を持っている友達に出会い刺激されたのもうれしかったです。また時間が合えば来年も参加したいです。ありがとうございました。

(女性・学生5年生)

●今回初めて参加させていただきました。2日間という短い時間の中で多くの講義や手技のご指導を受けることが出来、とても充実した体験となりました。個人的には先生方とお酒を飲む機会があったことが一番嬉しかったです。もっと懇親会の時間を延ばして頂ければとも感じました。このサマースクールで心臓外科への道に進むことを決めました。また来年もお世話になろうと思います。ありが

とうございました。(男性・学生5年生)

●実際にブタの心臓を用いて手を動かすことで、術者の先生方がどのような事を考え助手がどのようなサポートを行うのが求められているのかという事を考えることが出来とても貴重な経験でした。今後の実習で手術を見学する際により多くの事を学ぶ契機になったと思います。

(男性・学生5年生)

初期臨床研修医コース

●著名な先生方に直接教えて頂いて大変勉強になりました。1つの施設だと手技の一部分しか学べないと思います。今回のように様々な施設の先生にお話を伺うことで、多面的な考え方が身についたと思います。新しい発見がいくつもありとても有意義でした。今回学んだ事をより成長できるように精進したいと思います。貴重な経験をさせて頂き誠にありがとうございました。(男性・研修医2年目)

●Wet Laboで実際の手術と同じような器材を使わせてもらい訓練できたのが大変良かったです。自分の足りない部分がたくさん見つかったので今後の勉強の糧になりました。上田先生、國原先生、濱先生のお話は目指すべき医師像を示唆してくださる大変心に残るご講演でした。ご指導いただいた先生方本当にありがとうございました。(男性・研修医2年目)

●心臓外科医としての10年後の姿を考えるよい機会になりました。留学を含め良い医師になるために今できることを少しずつ取り組んでいこうと思いました。もっとWet Laboの時間が欲しかったです。

(男性・研修医2年目)

●今回初めて参加しました。日頃より時間を作って縫合の練習を、プログラム発表後はそれを元にした練習をしてきました。そうした上でのWet Laboは「具体的に何が足りないか」を見つけるために非常に貴重になりました。今回のように多数の先生方からアドバイスを頂ける機会はそう多くはないと思います。また1年基礎は勿論練習を積み、来年はさらに収穫を得られるよう過ごしたいと思えます。今回のサマースクールを通し、心臓血管外科へ進む気持ちを新たにしまし

た。来年も参加に挑戦します。

(男性・研修医1年目)

●2年連続で参加させていただきありがとうございました。心臓血管外科としての訓練が本格的に始まってから臨んだ今年のサマースクールは、講義の内容から懇親会の質問に至るまで昨年と比較にならないほど身に染みて勉強になりました。これから心臓血管外科をstartする人だけでなく“startしてしまった”人は「果たして自分の選んだ道は正しいのか」とふと振り返る時間がどうしても起きてしまうが、今回のような数々の先生方や同年代のライバル、そして未来や希望を抱いて入ってくる後輩たちに直に話す機会が得られることでそういった思いを払拭し、明日からの活力を得ることが出来ました。(男性・研修医3年目)

今年も開催します!

(2017年1月26日現在 予定)

呼吸器外科サマースクール

2017
7/8(土)・9(日)

【会場】
神戸医療機器開発センター(MEDDEC)
ニチイ学館ポートアイランドセンター

心臓血管外科サマースクール

2017
8/19(土)・20(日)

【会場】
テルモメディカルプラネックス

参加申込など詳細は日本呼吸器外科学会、日本心臓血管外科学会、当会のHPをご覧ください。

みんなでとろう インパクトファクター

GTCS インパクトファクター(IF)獲得の取り組み

2017年も勝負です!

General Thoracic and Cardiovascular Surgery (GTCS) は日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会のOfficial Journal、日本心臓血管外科学会のAffiliated Journalです

日本胸部外科学会
Webサイトに
お勧め論文を
掲載しています!

http://www.jpats.org/

2017年 正会員申請について

- 5月1日(日) 正会員申請締め切り日
- 6月15日(木)まで 委員会による審査かつ結果を理事会に報告
- 6月20日(水)まで 不合格者への結果連絡
- 7月3日(日)まで 不合格者からの異議申し立て
- 7月18日(水)まで 異議申し立て者に結果を通知
- 8月1日(木)まで 合格者に正会員委嘱通知

申請条件等は学会ホームページをご覧ください。

新教授
紹介

胸部外科学の
さらなる発展に向けて

片田 夏也 東邦大学医療センター大橋病院 外科 教授

平成27年8月1日付で東邦大学医療センター大橋病院外科教授を拝命いたしました片田でございます。着任にあたり、日本胸部外科学会会員の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。本学会は心臓血管外科、呼吸器外科、食道外科の胸部3領域が集う学術集会であり、食道外科を専門とする私にとりまして、領域横断的な議論を深める大変貴重な場です。会員の皆様には、それぞれのご専門の立場から格別のご指導を賜り、誠にありがとうございます。紙面をお借りして心より感謝申し上げます。

私は山口大学を卒業した後、北里大学外科に入職しました。研修修了後は、米国ネブラスカ州クレイトン大学外科 Ronald A. Hinder教授のもとへ留学する機会を頂き、2年にわたり食道疾患に関する様々な研究に関わることができました。具体的には逆流性食道炎・バレット食道・食道腺癌のシークエンスにおける

アポトーシス発現の基礎実験や、食道機能検査の実施と解析などに従事いたしました。平成10年に帰国した後17年間、北里大学食道・胃外科スタッフとして勤務し昨年、東邦大学に着任いたしました。東邦大学においてはこれまでの経験を活かし、食道癌に対しては低侵襲外科治療である内視鏡手術を積極的に導入してまいります。また、高度進行食道癌に対しては外科及び関連各科のメンバーからなるカンサーボードを強化し、安全で有効な集学的治療の確立を目指します。そして同時に、食道癌手術などの高侵襲手術の周術期の患者様をサポートするべく、各職種間の垣根を越えたチーム医療の推進にも力を入れてまいります。

東邦大学の起源は大正14年に開校した帝国女子医学専門学校に遡ります。附属病院として医学部のある東京都大田区の大森病院、目黒区の大橋病院、千葉県佐倉市の佐倉病院があります。私の勤務

地である大橋病院は、渋谷に近い都心部に位置しますが、建物が老朽化したため、平成30年6月に新病院の開院が予定されております。現在、職員が丸となり準備を進めているところです。大橋病院外科学教室は昭和49年に東邦大学第3外科学教室として、鶴見清彦初代教授により開講されました。現在、当教室は上部消化管・下部消化管・肝臓・呼吸器・乳腺の5つのグループにより構成され、各グループ間で協力して、診療・研究・教育に従事しています。教室には草地信也主任教授(呼吸器)、斉田芳久教授(下部消化管)、片田夏也(上部消化管)ほか、計32名のスタッフが在籍しています。また胸部外科領域では、大橋病院心臓血管外科の尾崎重之教授を始めとする先生方からもご支援を頂いてお



ります。教室の研究テーマは、炭山嘉伸第2代教授(現:学校法人東邦大学理事長)が築き上げられた外科感染症学を基軸として、基礎から臨床に至るまで多岐にわたります。私自身、今後も研鑽を重ねつつ、胸部外科学、食道外科学のさらなる発展に向けて誠心誠意努力する所存でございます。日本胸部外科学会員の皆様には、引き続きご支援ご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

片田 夏也
所属施設: 東邦大学医療センター大橋病院外科
卒業大学: 山口大学 (昭和63卒)

経歴
1988年 北里大学病院外科研修医
1994年 米国ネブラスカ州クレイトン大学外科リサーチフェロー
1998年 北里大学医学部外科学助手、その後、同外科学講師、准教授を経て
2015年8月 東邦大学医療センター大橋病院外科教授
2016年4月 北里大学客員教授(兼任) 現在に至る

趣味: 野球観戦、ジョギング、ゴルフ
好きな言葉: 一期一会

1. 学術集会運営会社選考の件

(1) 概要説明

学術集会運営会社選考の主旨：本理事会にて、運営会社3社にてコンペを実施し、その契約は単年度契約も有効とし、会長の意見を取り入れ、本理事会にて最終決定を行う。

(2) 第69回学術集会のアンケート結果・評価

学術集会委員長から参加者・学術集会委員会委員・主催者のアンケート結果、またオブザーバーである前会長からコンベンション会社の評価が報告された。参加者アンケートは3,000名のうちの514名からの回答があった。主催者の評価は平均点2.3、委員会委員の運営会社の評価(当日分)は3.0であった。主催者の意見として、担当者の実力によって大きな差があるとの指摘があった。また、会計の収支決算が報告された。

(3) 学術集会運営会社のコンペ実施

3社により書類提出(企画書・収支予算等)及びプレゼンテーションによるコンペを行い、慎重審議の結果、第72回の学術集会運営会社が決定した。

2. 2017年委員会委員構成と委員承認

2017年度委員会委員名簿(案)が提出され、承認された。(一部検討中)

主な変更は地方会のあり方委員会の新設、処遇改善委員会に女性評議員3名を追加、財務委員会に税理士をオブザーバーとして追加、会誌編集委員会のEditorとEditorial Boardをまとめること、倫理安全管理委員会・COI委員会に弁護士をオブザーバーとして追加等である。

3. 各種委員会報告(年度計画)及び審議事項

(1) 理事会報告

1) J-MACSの新体制移行に関して

J-MACS委員会を本会の1委員会として受けることで話し合いが進んでおり、J-MACS委員会規約(案)、PMDAと本会とのシステム貸与に関する契約書(案)、本会とVAD企業のシステム使用許可に関する契約書(案)、本会とVAD協議会との運用に関する協定書(案)、本会とデータセンターとの運用支援等業務委託に関する契約書(案)が提出された。具体的にはJ-MACS委員会委員長はVAD協議会から選出し本会からは副委員長を選出すること、データは両者の共有とすること、システム所有権はPMDA(無償貸与)等が報告され、検討の結果、期限付き(平成33年3月31日まで)で引き受けることを承認した。

2) 理事定数の件

昨年理事の任期を延長したことにより、新規に理事になれる人数の減少が危惧され、現在、小児心臓科や大学以外の理事が不在となり、理事枠を最大限多くできないか、理事長や会長枠を理事から外せないかとの質問をNPOセンターに提出し、その結果も参考の上、検討した。

結論として、次回理事会から関連の先生をオブザーバーとして参加していただく。定款上では、細則を変更すれば1名理事を増やすことができるので、今年はその作業を行うこととなった。それとは別に、特任理事(仮称)あるいは推薦理事(仮称)設置の叩き台を定款改訂委員会で検討する。

3) JATSフェロシップ

JATSフェロシップ(1名につき1~3ヵ月で100万円以内)とJATS/AATS Grahamフェロシップ(1名につき1~3ヵ月で150万円)が進行中で、ホームページ上で公募案内を掲載している。また、アジアからのトラベルグラントは1名につき10万円10名に援助する。

4) 個人情報保護委員会へ提出する個人情報保護法改正に対する要望書の件

日本循環器学会から上記要望書の提出に関し、学会名追加に賛同するか否かの問い合わせがあり、検討の結果、賛同すると回答したことが報告された。

5) 本会70年の歩み(仮称)発行の件

この発行は会誌編集委員会が中心となる。



6) Heater-Cooler Joint Statement

STSから人工心肺で利用するHeater-Coolerの声明注意喚起について依頼があり、本会も賛同することとし、診療問題委員会が対応する。

(2) 総合将来計画委員会

委員に池田理事を追加する。

(3) 専門医制度委員会

日本専門医機構の第5回理事会概要が報告された。主な報告事項は、①専門医認定更新部門で一次審査は各学会に委ね、機構は二次審査を実施 ②認定料は各領域学会から日本専門医機構認定専門医資格認定料として専門医1人当たり10,800円を受け取り、認定書を発行 ③専門研修プログラム研修施設評価・認定の見直しがあり、一次審査は各領域学会が行い、二次審査は19領域から各1名ずつ推薦された委員構成の『研修委員会』が、機構に定めた基準に則って実施 ④認定料は、機構が審査に合格したプログラム申請幹施設から認定料10,800円5年分を徴収し、認定証を発行 ⑤サブスペ領域は、基本領域に準ずる領域と考えられることから、機構認定のサブスペ領域として認定する。

心臓血管外科専門医認定機構、呼吸器外科専門医合同委員会、食道外科専門医状況、外科専門医取得のための症例数に関する引き続きの要望、日本専門医機構からの新しい整備指針がなされることなどが報告された。

(4) 選挙管理委員会

評議員の任期を会計年度と統一したほうが管理しやすいので、変更してはどうかとの提案がなされた。検討の結果、変更することが承認された。なお、2020年の選挙を目的に改訂する。

(5) 会誌編集委員会

会誌編集委員会のEditorとEditorial Boardをまとめることを検討中である。10月11日現在の論文投稿・掲載状況、GTCS Preliminary IF 2015は0.988、Invited Review Article投稿状況、2015-2016 GTCS 引用促進資料分野別論文リスト、IFは審査中であることが報告された。

(6) 学術委員会

委員会委員については、コンバージョンが終了するまでは現委員で行う。

1) 2015年学術調査

2016年度内に、心臓血管外科のコンバージョンの完成と呼吸器と食道領域で未回答施設への督促を行い年度内に調査を終了する予定。心臓血管外科のコンバージョンは、若干の改修を行っている。呼吸器外科は2016年調査に向けて改修箇所の最終確認中である。

2) 2010-2014年における施設症例数と成績の検討結果の論文化

現在再解析を依頼中であり、解析が終了した時点で論文化について決定する。心臓血管外科のAdultでは相関関係が確認された。

3) 学術調査にあわせたNCDデータ項目変更

基部置換についてNCDに項目変更を依頼した。

4) 食道学会からの依頼について

日本食道学会から、学術調査データに提供依頼があり、認定施設と非認定施設に分けて回答する旨、連絡し、回答項目について確認を行っている。

(7) 学術集会委員会

1) 第70回学術集会期間中に『献体による食道内視鏡手術研究会(仮)』開催について

上記、研究会を学術集会の関連行事あるいはその他の会合として、本会の許可と支援依頼があり、審議した結果、後援することが承認された。第70回学術集会は胸部外科の歴史を講演していただく特別企画、会誌編集委員会による70年の歩み(仮称)の発刊、チーム医療推進委員会による特別企画、2日目の午後はSurgical Technic

Sessionを中心に開催予定である。

2) プログラム構成の検討(学術集会基本構想)

領域横断的なプログラム案を検討、会員数や学会の将来性を考慮した三領域別上級演題セッション数の設定、国際化への対応として抄録タイトルの英語名は義務化、採択された上級演題は英語抄録を提出。発表は原則日本語、スライドは英語表記。ポスターは英語表記が望ましい。

3) アジアンフェロシップについて

基本的には10人程度で、上級演題の中に取り入れ、通訳を入れて行う予定である。詳細は国際委員会と相談しながら行う。

(8) 倫理・安全管理委員会

医療安全講習会の企画、医療事故調査制度の周知と対応、学術調査の倫理審査、演題募集及び論文提出の際の倫理審査などを検討する。

(9) 診療問題委員会

平成30年度改訂に向けての外保連要望項目を提出することが報告され、要望項目について関係学会と調整中である。また、『ウシ心膜パッチの供給安定化』の要望書提出がなされ、本理事会で承認された。

(10) 研究・教育委員会

心臓の新委員を1名変更する。また、サマースクールの決算書が報告され、本理事会でも承認された。更に、PGC策定では心臓分野は第6回3学会合同PGC委員会や持回審議を経ての最新状況、呼吸器分野は日本呼吸器外科学会学術委員会と調整しながら中期計画案を策定予定、食道分野は第72回分まで座長・講師決定済みであることが報告された。

(11) 広報(Homepage・Internet)委員会

Newsletterの発行内容、英文ホームページは国際委員会と協力しながら随時更新、プレスリリースにも適宜対応する。

(12) 定款改訂委員会

理事1名増員と特任理事(仮称)あるいは推薦理事(仮称)の叩き台を作成する。

(13) 臓器移植委員会

心臓移植関連学会協議会を心臓移植・心肺同時移植関連学会協議会に、肺・心肺移植関連学会協議会を肺移植関連学会協議会にそれぞれ名称変更したことが報告された。

(14) 処遇改善委員会

委員会委員に女性評議員3名を追加、処遇改善

について他学会とも協力しながら検討、大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会に出席し意見交換及び学会としての対応を検討などの年度計画が報告された。

(15) チーム医療推進委員会

第70回学術集会時に特別企画を実施、委員に2名の評議員を追加することが報告された。

(16) 国際委員会

年度計画として、JATSフェロシップ、トラベルグラント、広報委員会と協力してホームページの構築、委員構成について報告された。

(17) COI委員会

日本医学会からのCOI管理ガイドライン(改訂版)、診療ガイドライン策定参加者資格基準ガイドラインの確認依頼がきており、対応する。委員に、顧問弁護士をオブザーバーとして追加する。

(18) 地方会のあり方委員会

各地方会の代表にアンケートを送付し、その結果が報告された。地方会での発表が専門医申請のクレジットになったことを受けて、本会と地方会との連携を深めるために、1) 会員は所属する地域の地方会会員となる 2) 地方会会費は本会会費と同時に一括徴収(地方会会費は3,000円)とする、の2点を中心に作業を進めることとし、詳細は継続審議とする。

4. その他

(1) NCD委員会報告

自施設ダウンロードについて、2017年1月から2015年までのものができるようにという予定で進められていることが報告された。利用できるのは診療科長、主任であり範囲は申請者が所属するデータに限る。

(2) NCDデータを利用した複数領域にまたがる新規研究課題公募

本会理事を代表者とする『悪性腫瘍併存下での心臓大血管疾患に対する治療戦略の現況と課題解明—最適な治療体系構築とエビデンスのあるガイドライン策定に向けての基盤研究』を申請したことが報告された。

(3) 肺癌診療・ガイドライン2016版後援依頼の件

上記『肺癌診療ガイドライン2016版』を発刊するにあたり、後援依頼があり、本理事会でも承認した。

(4) IMPELLA補助循環用ポンプカテーテルの適正使用に関する委員

日本循環器学会から、医療機器『IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル』の使用基準を改訂するにあたり、本会へ委員推薦依頼があり、診療問題委員会委員長を推薦したことが報告された。

(5) 脳卒中と循環器病克服5カ年計画

日本循環器学会主導の上記を推進するに当たり、本会から理事長を委員として推薦する。

第70回日本胸部外科学会定期学術集会 BOYS, BE AMBITIOUS! BUT STAY HUMBLE

会期: 2017年9月26日(火)~29日(金)

会場: さっぽろ芸術文化の館・ロイトン札幌

会長: 松居喜郎(北海道大学大学院医学研究科 循環器・呼吸器外科 教授)

URL: <http://www2.convention.co.jp/70jats/>



演題募集期間

2017年2月14日(火)~4月18日(火)

*公募演題詳細等はホームページで随時更新してまいりますのでご確認ください

● Postgraduate Course (予定)

心臓血管外科コース	呼吸器外科コース	食道外科コース
9月26日(火)・9月29日(金)	9月26日(火)	9月28日(木)

● 主要プログラム

- ① 合同シンポジウム(公募/一部指定)
- ② シンポジウム(公募/一部指定)
- ③ パネルディスカッション(公募/一部指定)
- ④ ワークショップ(公募/一部指定)
- ⑤ 会長要望演題(公募/一部指定)
- ⑥ Surgical Technique Session(公募/一部指定)

● 70周年特別企画: 企画講演および企画展示を予定

● 一般演題(口演・ポスター)

事務局: 北海道大学大学院医学研究科 循環器・呼吸器外科 TEL: 011-706-6042 FAX: 011-706-7612
運営準備室: 日本コンベンションサービス(株)北海道支社
TEL: 011-738-3503 FAX: 011-738-3504 E-mail: 70jats@convention.co.jp

呼吸器外科医の道—継承する技と心—

第34回日本呼吸器外科学会総会について

岩崎 昭憲 第34回日本呼吸器外科学会総会 会長/福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科

この度、第34回日本呼吸器外科学会総会を、2017年5月18日(木)、19日(金)の両日、福岡国際会議場において開催させていただくことになりました。

福岡市での開催は第3回総会以来、実に31年ぶりとなります。伝統ある本学会総会を主催させていただくことは、大変光栄なことと存じ、心より感謝申し上げます。

有益な学会となりますよう鋭意努力を重ね、皆様の期待にお応えできるよう努力してまいります。

学会テーマは「呼吸器外科医の道—継承する技と心—」と、いたしました。

今日の呼吸器外科領域の発展があるのは、多くの先達の努力や工夫が継承され、そこから生まれた新技術とともに進歩してきた結果ではないかと思えます。

今後も常に新技術に基づいた手術手技や診断・治療法などを磨き、技量だけではなく患者さんへの温かい心を伴った医療を心がけていくことが大切だと思えます。

日本呼吸器外科総会は、2日間の会期中に2000人を超える呼吸器外科医が一

堂に会し、短期間に多くのことを学べる機会です。お蔭様で過去最多の1450題の演題応募をいただき、アジア地区からも40題を超える応募をいただきました。学会のあり方も時代に対応したものが求められていますので、演題の採用や国際化、講習会などを考慮しながら、なるべく多くの会員が参加できるような魅力ある学会構成に取り組んでいこうと思えます。

シンポジウムやパネルディスカッションに加えて、クリッカーを使用した対話型の講演や各種講習会は学会プログラム枠外に実施し、総会中には全員が議論に集中できるよう工夫しました。

招請講演には、ウィーン大学のWalter Klepetko教授に拡大手術、肺移植や気道系の手術に関して広く講演をいただくことになっています。Joint SessionにESTSからGaetano Rocco教授などの参加や、コペンハーゲン大学のJesper Holst Pedersen教授の招請講演も予定されています。アジア各国からの演者には多くのトラベルグラント

を準備して、国際交流の場を設けました。

特別講演には、岩中督NCD理事長による講演や、第8版の肺癌新TNM分類中皮腫の最新病理知見についての教育講演を企画しています。

世界に発信した業績を残された日本呼吸器外科医の姿を知っていただくためのメモリアル講演を予定しました。

福岡市は、各地からの交通アクセスも極めて良く、毎日、多くの直行便や新幹線などが乗り入れています。福岡の豊かな食文化や魅力を、学会とともに楽しんでいただければと思っています。風薫る新緑の季節の福岡に、多くの皆様の参加をお待ちしております。



岩崎 昭憲
所属施設：福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科
卒業大学：福岡大学
経歴：
1982年 福岡大学医学部卒業 福岡大学病院第2外科 臨床研修医
1998年 福岡大学1号研究員 海外留学 (Cleveland Clinic, Baylor College)
2004年 同大学医学部2外科 助教授
2006年 同大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 (講座名称変更) 准教授
2008年 同 主任教授
趣味：山歩き
好きな言葉：勇往邁進

進化するデバイス、深化する技術

第45回日本血管外科学会学術総会について

末田 泰二郎 第45回日本血管外科学会学術総会 会長/広島大学大学院医歯薬保健学研究院・外科学(心臓血管外科学)

平成29年4月19日(水)~21日(金)に上記学術総会を広島国際会議場にて行います。学会テーマは昨今のステントグラフトや末梢血管ステントの進歩と外科医のハイブリッド治療の深化に因み上記としました。学術総会は7つのシンポジウム、7つのビデオシンポジウムの他、CVITとの合同シンポジウム、ビデオセッション、要望演題、一般口演、ポスターセッションからなり19日の午後から開始して21日午前で終了します。お蔭様で839題の演題を頂戴しました。シンポジウムやビデオシンポジウムに多数応募下さりましたが時間の都合上一部演題を

一般口演やポスターに振り替えましたこととお詫び申し上げます。特別講演は元広島カーブ監督、元WBC監督の山本浩二さんに「進化するプロ野球」と題してお話頂きます。指導医講習会、医療安全講習会は初日の学術プログラム前後に行い、最終日の午後には教育セミナー、CVT講習会、第1回ステントグラフトワークショップ、第2回血管看護研究会、禁煙セ



末田 泰二郎
所属施設：広島大学大学院医歯薬保健学研究院 外科学(心臓血管外科)
卒業大学：広島大学 1978年
経歴：
1953年 5月生まれ
1978年 広島大学医学部卒
1986年 フランスボルドー大学留学
1995年 広島大学医学部外科学第1助教授
2000年 同上教授
2014年 改組で上記教授
趣味：水泳、篠笛
好きな言葉：「禍福は糾える縄の如し」



編集後記

今回のNEWSLETTERは冒頭からサマースクールの話である。この呼吸器外科、心臓血管外科のサマースクールもここ数年は定着し人気も抜群である。枠もすぐに埋まってしまう。昨年これに参加した医学生、研修医の体験談が今回のNEWSLETTERに掲載されているが、呼吸器はWet Laboならびに胸腔鏡に関心が集まっており、充実した時間を送ったようである。心臓血管外科もWet Laboはライブ手術よりも遙かに好評なようで、もっとWet Laboの時間がほしいという希望が多く聞かれた。そして夜の懇親会はずべての参観者が感激しているようで、第一線で活躍されているエキスパートと酒を酌み交わしながら、外科医の心得を教わり、将来のことを相談し、また余興に興じるのは特別な時間であるようだ。ある研修医は、「手術は手先の器用さではなく頭を使うこと、うまくいくことがわかった。」というコメントをしていたが、研修医でこの事が理解

できれば、もう外科医としての将来は約束されたようなものである。大学のポリクリで5年生の医学生が回ってくるが、彼らと話しをしていると、よく聞かれる質問は二つである。「心臓血管外科医は体力が無いとだめですか?」「心臓血管外科は器用で無いとだめですか?」決まってこの二つである。残念ながらこの質問をする医学生が心臓血管外科に来てくれた試しは無い。私の経験では心臓血管外科にやってくるのは、自分のそのような能力を微塵も疑ってない人である。違う言い方をすれば、あまり細かいことは考えず、興味があるからやるんだというような単純な人間が多い。おそらく呼吸器外科、食道外科もそうであろう。2017年のサマースクールでも、あれこれ考える前にまず体験して、めいっぱい彼らの興味を引き出せればと思う。

広報委員会委員長 夜久 均